

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本思想史概論	日本から再び思想史する	2	片岡 龍	4	火	2	1
日本思想史概論	「日本思想史」の課題と方法	2	佐藤 弘夫	3	金	1	2
日本思想史基礎講読	近代史料を読む	2	岡安 儀之	4	金	2	3
日本思想史基礎講読	古代・中世資料を読む	2	佐藤 弘夫	3	金	3	4
日本思想史各論	日本思想を再発明する	2	片岡 龍	5	火	4	5
日本思想史各論	変容する死後世界の光景—日本列島の死生観	2	佐藤 弘夫	6	金	1	6
日本思想史各論	新聞メディアから見た明治前期思想	2	岡安 儀之	5	金	2	7
日本思想史各論	戦後日本思想史再考	2	宇野田 尚哉	集中(5)			8
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 I	2	佐藤 弘夫. 片岡 龍	5	水	3	9
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 II	2	佐藤 弘夫. 片岡 龍	6	水	3	10

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (准教授)

講義コード：LB42201, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本から再び思想史する

2. Course Title (授業題目)：

Re-doing shisoshi from Japan

3. 授業の目的と概要：

日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かを考え直すテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. 学習の到達目標：

本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する知識と関心を深めることを期待する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：思想史と3.11後の生き方
- 第2回：丸山眞男と日本思想史
- 第3回：加藤周一と日本文化論
- 第4回：小林秀雄とハンナ・アレントの「考える」こと
- 第5回：「ウーマンリブ」・ジェンダー論から見直す思想史
- 第6回：沖縄から見直す思想史
- 第7回：東北から見直す思想史
- 第8回：アジアとの「和解」から見直す思想史
- 第9回：折口信夫『死者の書』を思想史する
- 第10回：柳田國男『先祖の話』を思想史する
- 第11回：「天皇・皇后」を思想史する
- 第12回：「公共・和」を思想史する
- 第13回：「いのち」と「靈性」の思想史
- 第14回：「ひと」と「天道」の思想史
- 第15回：「まこと」と「実学」の思想史

6. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

7. 教科書および参考書：

『日本思想史ハンドブック』（苅部直・片岡龍編、新書館）
『東アジアの共通善』（邊英浩編、岡山大学出版会）

8. 授業時間外学習：

小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書および参考書の指定箇所を学習する。

9. その他：

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫（教授）

講義コード：LB35101, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「日本思想史」の課題と方法

2. Course Title (授業題目)：

What is history of Japanese thought?

3. 授業の目的と概要：

毎回、日本思想史に関わる多様なテーマを取り上げ、資料に即した具体的な考察を行うことによって、日本思想史という学問の性格と特色について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

日本思想史という学問の持つさまざまな顔とその魅力を知る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 日本思想史への招待ー仙台と川内の原風景を探る
2. 青葉山「蒙古の碑」を読み解く
3. 起請文の宇宙ー中世文書に世界観を読む
4. 慈覚大師の足跡
5. 日本人と山ー日本文化論を見直す
6. 妖怪たちの住むところ
7. ゆるキャラの逆襲ー成仏する草木
8. 日本人と神
9. 死者の花嫁
10. 天皇制はなぜ続いたか
11. 美人女房落魄伝説ー才女が落ちぶれる話
12. 即身仏の寺ーミイラの世界史
13. 幽霊の発生
14. 神仏習合論再考
15. 仏の消えた浄土

6. 成績評価方法：

レポート 80% 出席 20%

7. 教科書および参考書：

参考書は毎回紹介する。スライドとプリントを使用する。

8. 授業時間外学習：

毎回、次週までの課題を指示する。

9. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB45203, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近代史料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading historical materials of modern period

3. 授業の目的と概要：

明治期の思想家が著した文献資料（新聞や雑誌など）を輪読形式で精読する。また、その文献が有する思想的・同時代的意義についても検討する。

文献例：『明六雑誌』、『共存雑誌』、『東京日日新聞』、『日新真事誌』など。

4. 学習の到達目標：

日本思想史研究に用いる史料・文献を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) オリエンテーション
- 2) 報告と質疑応答
- 3) 報告と質疑応答
- 4) 報告と質疑応答
- 5) 報告と質疑応答
- 6) 報告と質疑応答
- 7) 報告と質疑応答
- 8) 報告と質疑応答
- 9) 報告と質疑応答
- 10) 報告と質疑応答
- 11) 報告と質疑応答
- 12) 報告と質疑応答
- 13) 報告と質疑応答
- 14) 報告と質疑応答
- 15) 報告と質疑応答

6. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答への積極的参加の有無）[70%]

出席点 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

9. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫（教授）

講義コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古代・中世資料を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading historical materials of ancient and medieval period

3. 授業の目的と概要：

佐藤弘夫著『死者のゆくえ』（岩田書院、2008年）に引用された史料を、引用元となるテキストから探し出して精読する。日本思想史研究において、どのような史料が用いられるかを知るとともに、学術論文の組み立て方を学ぶ。初心者でも受講可。

4. 学習の到達目標：

日本思想史で用いる史料になじむとともに、できるだけ正確に読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2.～15. 古代・中世日本思想史関係資料購読

6. 成績評価方法：

平常点60% レポート40%

7. 教科書および参考書：

プリントを使用する

8. 授業時間外学習：

毎回授業の際に指示する

9. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：片岡 龍 (准教授)

講義コード：LB52401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想を再発明する

2. Course Title (授業題目)：

Re-inventing Japanese thought

3. 授業の目的と概要：

説話・オーラルヒストリー・探検という観点から、「人類」・「歴史」・「文明」概念の再構築を試みた研究 (A 杉山和也『南方熊楠と説話学』、B 保莉実『ラディカル・オーラルヒストリー』、C 梅棹忠夫『日本探検』) を参考にした発表をもとに、討論をとおして日本思想史の方法論的自覚を促す。

4. 学習の到達目標：

思想史における「経験」の意義の理解を共有し、共時的・地域学観点からの日本思想史の技法を検討する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進めます。

第1回：ガイダンス

第2回：A 南方熊楠と説話学

第3回：A 南方説話学から見た日本思想史の可能性

第4回：B オーストラリア先住民における「歴史実践」

第5回：B オーストラリア先住民における「歴史経験」

第6回：B 日本思想史における「歴史実践」の可能性

第7回：B 日本思想史における「歴史経験」の可能性

第8回：C 日本文明と教育 (福山誠之館)

第9回：C 日本文明と宗教 (大本教)

第10回：C 日本文明と開発 (北海道独立論)

第11回：C 日本文明と自然 (高崎山)

第12回：C 日本文明と交通 (名神高速道路)

第13回：C 日本文明と二重構造 (出雲大社)

第14回：C 「文明論的探検」から見た日本思想史の可能性

第15回：A B C 日本思想史における地域学の可能性

定期試験：なし

6. 成績評価方法：

平常点 70% (出席 30%、発表・討論 40%)、レポート 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：授業中に適宜資料を配付します。

参考書：『ヨーロッパの昔話』(マックス・リュティ、岩波文庫)、『歴史の方法について』(小谷汪之、東京大学出版会)、『近代世界における日本文明』(梅棹忠夫、中央公論新社)

8. 授業時間外学習：

担当する発表準備を中心に、各回ごとの教科書・参考書の指定箇所等を併せて学習する。

9. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫（教授）

講義コード：LB65101, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

変容する死後世界の光景—日本列島の死生観

2. Course Title (授業題目)：

Changing Concept of the World after Death in Japan

3. 授業の目的と概要：

死は人類にとって最重要の課題であり、日本列島についても各分野で膨大な研究が蓄積されてきた。しかし、従来の研究においては、一つの時代を超えた視点や列島以外の地域に向けられた眼差しはほとんどなかった。私たちはいまだに古代から現代に至る、列島の死後世界の全体的なイメージを共有できないでいるのである。

今年度の授業では、そうした現状を踏まえ、1、日本列島における死後世界の表象とその変遷を通時代的・総体的・立体的に解明し、その成果を国際的に通用するフォーマット化して世界に発信可能にすること、2、その技法を他地域にまで適用可能な「方法」として練磨することによって、国際的な比較研究の可能性を追求すること、3、広いコンテキストの中に現在の死生観や葬送儀礼の変動を位置付け、その意味を読み解くことによって、ターミナルケアや看取りなどに関わる今日的課題に対して具体的な提言を行うこと、の3点を基本目的とする。

4. 学習の到達目標：

日本列島の死生観と死後世界のイメージが時代によって大きく変化していることを理解するとともに、その変動の先にある現代社会が、死生観という視座から見たときどのような特色を持つ時代であるかを考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ～4. 古代の死生観
5. ～7. 中世の死生観
8. ～10. 近世の死生観
11. ～14. 近現代の死生観
15. まとめと討論

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

プリントとスライドを使用する。参考書は授業において指示する。

8. 授業時間外学習：

授業において指示する。

9. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：岡安 儀之（助教）

講義コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

新聞メディアから見た明治前期思想

2. Course Title (授業題目)：

Thought of early Meiji era from newspapers

3. 授業の目的と概要：

これまでの明治前期思想研究において、その中心となってきたのは、「啓蒙」や「民権」と名の付くような著名な思想家と呼ばれる人物であり、またそれらが集い意見し合う学術や政治に関する結社であった。つまり、この授業で取り上げる新聞や新聞記者は枝葉の存在とされてきたと言ってよい。しかし、近代的議会制度の成立していない明治前期において、新聞は極めて重要な政治的コミュニケーションの場であり、新聞という政治文化をいかに社会に定着させるかは、当時の知識人達の課題でもあった。この授業では、そうした研究動向を鑑み、明治前期の新聞メディアに光を当てていく。具体的には明治期の著名な新聞記者である福地源一郎（桜痴、1841～1906）と福沢諭吉（1835～1901）という近代日本を代表する思想家を比較することで、明治思想史の再検討を行う。

4. 学習の到達目標：

時代の転換期に明治知識人たちが向き合った思想課題を、文献史資料に即して分析説明できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) オリエンテーション
- 2) 「新聞記者」の誕生①
- 3) 「新聞記者」の誕生②
- 4) 「新聞記者」の誕生③
- 5) 政論新聞化と言論界の変容①
- 6) 政論新聞化と言論界の変容②
- 7) 士族と平民①
- 8) 士族と平民②
- 9) 士族と平民③
- 10) 華士族をめぐる論争①
- 11) 華士族をめぐる論争②
- 12) 明治前期の自治論①
- 13) 明治前期の自治論②
- 14) 明治前期の自治論③
- 15) まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [60%]

平常点（コメントペーパーをもとに授業への参加度や貢献度をみる） [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で配布したレジュメをもとに、復習すること。また、授業の中で紹介する書籍を積極的に読むこと。

9. その他：

授業では、毎回感想や質問を記すコメントペーパーを用意し、それを中心に対話形式で進めていく予定である。コメントペーパーの提出は自主性に任せるが、それをもって平常点を判断するので注意すること。

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中(5), 単位数：2

担当教員：宇野田 尚哉 (非常勤講師)

講義コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

戦後日本思想史再考

2. Course Title (授業題目)：

Rethinking Postwar Japanese Intellectual History

3. 授業の目的と概要：

戦後史・戦後思想史の大まかな流れを把握するとともに、重要な出来事・人物・テキスト等についての基礎的な知識を蓄える。戦後史の各時期に、どのような歴史的背景のもとどのような問題についてどのような立場の人が何を考えたか、俯瞰的に把握する。

そのうえで、現状のさまざまな問題について自分の意見を持てるようになることを目指す。

授業は、通史的概観と個別のトピックについての講義を組み合わせるかたちで行う。

4. 学習の到達目標：

- (1)戦後史上のとくに重要な出来事を挙げ、説明できる。
- (2)戦後思想上のとくに重要な人物やテキストを挙げ、説明できる。
- (3)戦後思想史のおおまかな流れを説明できる。
- (4)現在の日本が抱える思想的課題を指摘し、自分の意見を述べることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：課題・方法・資料
2. 「戦後」の始まり
3. 朝鮮戦争と日本
4. さまざまな「55年体制」
5. 1960年前後の日本
6. 高度経済成長と日本社会
7. 1960年代後半の日本
8. 「戦後」日本とアジア
9. 「戦後」日本とマイノリティ
10. 「戦後」日本とジェンダー
11. ポスト高度成長期の日本：1970年代
12. 「強い円」の時代：1980年代
13. 冷戦構造の解体と日本：1990年代
14. 「失われた20年」と現在：まとめにかえて
15. 試験

6. 成績評価方法：

授業中に課すリアクション・ペーパー40点、試験60点

7. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ハンドアウトを配布する。参考文献は初回の授業の際にまとめて紹介する。

8. 授業時間外学習：

事前に reading assignment を配布するので読んでおくこと。

9. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫, 片岡 龍 (教授、准教授)

講義コード：LB53304, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought1

3. 授業の目的と概要：

卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. 学習の到達目標：

卒業論文のテーマの決定

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

なし。

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

9. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 弘夫, 片岡 龍 (教授、准教授)

講義コード：LB63305, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：

前 Semester での報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. 学習の到達目標：

卒業論文作成の準備と研究内容の深化

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

6. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

7. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』ミネルヴァ書房

8. 授業時間外学習：

ブレジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

9. その他：